

SIFA ニュース



NO. 107

2020 年度 冬号

(公財) 鈴鹿国際交流協会

わいわい春まついの 前日・当日ボランティアを募集します

昨年は新型コロナウイルスのため、中止になりましたが、今年はコロナ対策をしながら4月24日(土)10:00~15:30、鈴鹿市文化会館にてわいわい春まつり2021を開催予定しています。楽しく素敵なお祭りをみんなで作ってみませんか。

助けていただく事は、ステージの裏方、会場受付、消毒管理ほか会場の設営・撤去です。



予定 4月17日(土) ボランティア説明会

23日(金) 午後から前日準備、24日(土) 当日準備と片付け

※学生さんには、ボランティア証明書を発行します。

※ボランティアの申し込み、お問い合わせは、SIFAへ

内容

【案内】

- わいわい春まつり
- 鈴とも活動

【報告】

- 留学生へ生活節支援
- 国際理解セミナー
- 日本語ボランティア養成講座
- 多言語災害ボランティア
- 日本語講座
- 冬休みの宿題支援教室

留学生へ生活物資支援

鈴鹿市の新型コロナウイルス対策事業の1つである留学生の生活応援事業を受託し、お米、マスク、消毒液、缶詰、ゴミ袋のほか、防災の意識を持ってもらうためにα化米を準備しました。お米は、鈴鹿農協受託者部会の有志の皆さまの協力を得て、梱包費程度で特別にご提供いただきました。

また、AGFさんからコーヒーを無償提供いただき、市で用意した鈴鹿茶、クリアファイルも同封しました。

市内の大学、高専、日本語学校、専門学校で学ぶ鈴鹿在住の留学生にお渡ししたところ、特にお米については大変ありがたいと好評でした。コロナの影響でアルバイトできない等で、生活が苦しい留学生がいますので、お渡しした物資により少しでも安心して生活し、勉学に励んでもらえることを願っています。本事業での生活物資提供は、2月にもう一度予定しています。



国際理解セミナー「フランス」

今回の国際理解セミナーは、昨年度「フランス貴族の暮らし」の講演をして頂いたフランスの貴公子 ウィリアム ベドリヌさんに、3回シリーズでフランス理解講座をして頂きました。昨年度は、予定していた追加講座がコロナの為に中止となり、その再企画として今回のオンライン講座となりました。

第一回「フランスの伝統的なマナー全般」(2020.11.08)



パーティの企画から開き方、食卓のセットアップやメニューの順番、席次、宴会中のマナーや食仕方、ディナー後の暗黙の了解や礼儀などについて、多岐に渡り、かなり具体的なお話を伺いました。

*フォアグラをパンに塗ったり、残ったソースをパンできれいにしたりするのはNG。*サラダ菜も、フォークとナイフでたたみ折りして食べる。

*ワインは常に 3/4 入れておく。*ひとりで参加している既婚者の女性と未婚の男性を、同じテーブルに座らせない。など、タブーや配慮しなければ

ならないことなど、細かく教えて頂きました。なかなか帰らないお客様をどのように帰すか?など、現実的なテクニックなどもありましたよ!

第二回「ワインとお菓子」(2020.12.19)

フランスの中でも、特にウィリアムさんの出身地リヨンとその隣のボジョレー地方のお菓子とワインについてお話をして頂きました。

紹介されたお菓子は、当時、ペストに次ぐ新しい病気でパンデミックが起こった時、聖母マリア様に聖職者がお願いと約束をしたことが元で出来上がった高級なお菓子や、失敗が元で出来た、今やリヨンを代表するお菓子の話など、どちらも、リヨンの歴史にまつわるもので、大変面白い内容でした。

また、ワインは、ボジョレー地方の葡萄の木は背が低く、収穫の時には、「おしりの森」となるという笑い話や、ワインを作る工程の説明に沿って、一帯で取れた葡萄でも、畑によって味が違うので混ぜずに後で組み合わせる話、樽も好みのアロマを作り出す為、木の割合を種類によって変えるなど、かなりきめ細かい説明をして頂きました。光の街リヨンや金色に光るボジョレー地方の風景、実際にワインやお菓子を作っている所の写真や動画も楽しめましたので、とてもわかりやすく楽しい講座でした。



第三回「ルイ 14 世時代の上流階級の人々の暮らし&遊び」(2021.01.23)

主にルイ 14 世と彼を取り巻く人々の当時の暮らしの様子を一日の流れに沿って詳しく説明頂きました。

ルイ 14 世がヴェルサイユに築いた宮殿にまつわる話、細かい生活スケジュール、朝と就寝の儀式、正妻と情婦・婚外子の話、貴族たちをどのようにコントロールしたか、当時の衛生の話、食事の話などなど、興味深い話が盛り沢山で、非常に内容の濃い講義でした。



- 当時の「美人」は、ぼっちゃりした人だった。
- ルイ 14 世は、病気が原因で髪がなく、かつらを被っていた。
- 戦争をゲームのようにしていた。
- 私生児の方が気が安らぐので可愛がっていた。
- 私生児の位を上げる目的にはふたつあり、ひとつは、その母(情婦)と別れる時のプレゼント、いわば手切れ金代わりだったこと。もうひとつは、情婦が強すぎていいなりだった。

などのプチ情報も面白くて、ルイ 14 世という人に大変興味が湧きました。

当時は、散歩や狩りをする他、パーティ・サロンが頻繁にあったこと、バレエ・ダンス・カジノ・トランプ・ビリヤード・ダーツなどの遊びで楽しんでいましたが、その遊びさえも、ちゃんと目的があり、その目的に沿った形、規模で開催していたそうです。今も昔も、政治にからんだメディア戦略など通じるものがたくさんあり、とても面白かったです。William さんに感謝申し上げます。

日本語ボランティア養成講座

10月の木曜日に5週にわたって開催しました。コロナ禍で集まることが心配されましたので、例年と違いオンラインで開催しました。

また、平日の昼間実施等、趣向を変えての実施でしたが、7名の方にご参加いただきました。

今年は「話すこと」に注力し、複数の教科書の良いところ取りをすることで、学習内容の幅を広げることや、やさしい日本語でのコミュニケーション等を学習しました。

お互いの顔を見ながら意見を出し合う場面もあり、参加者から良い評価を頂きましたが、例年は自然とできる参加者同士の雑談などがほとんどなく、つながりを作るという部分では、少し課題が残りました。

コロナ禍で、業種によっては業務時間の短縮等により収入が減っていて生活が脅かされているという話もちらほら聞くようになりました。仕事をするうえでもまず日本語の習得をとの思いで勉強を始められる方もいらっしゃいます。真剣に日本語を学ぶ外国人に寄り添ってご支援いただける方をこれからも育成していきます。次回は、今年の春～夏にかけて実施予定ですので、ご興味をお持ちの方は、SIFA までご連絡ください。



↑オンライン講座の様子

鈴ともの活動に参加しませんか

鈴ともは、社会福祉協議会に団体登録をしている多文化共生を考える市民の団体で、H21年より活動しています。メンバーは、社協の職員・福祉分野で活動されている方、一般市民の方で、SIFAもこの活動に参加し、協働できる部分と一緒に取り組んでいます。

これまでに国際交流サロンの実施や国際子育てサロンの設立支援、外国人向け介護福祉士試験対策講座、外国人向けの救急救命や防災の講座、わいわい春まつりでの国際クイズラリーなどを行ってきました。

最近では、コロナ禍で出てきている様々な課題に対応するため通訳付きの生活相談会「SUZUTOMO CAFE」を月1回開催し、引きこもりや食糧支援、生活困窮等の課題を専門機関につないだり、話を聞くことで心の負担を和らげたりしています。

鈴ともは、毎月第3火曜日 19:00より定例会を開いています。交流のきっかけになる楽しいイベントと一緒に作るメンバーを募集していますので、ご興味のある方は鈴とも（✉ suzutomo.suzuka@gmail.com）または、SIFAまでご連絡ください。



↑会議の様子

多言語災害ボランティア



↑多言語表示シートの説明

12月5日(土)ジェフリー鈴鹿にて多言語災害ボランティア研修(基礎編)を開催いたしました。

鈴鹿市在住の外国人の状況や安全なスペースについて外国と日本での災害に対する考え方の違いなどを見ていきました。また、外国語でコミュニケーションが難しい場合翻訳アプリを使ったり、やさしい日本語を活用することで、伝わるのが広がることを共有しました。

2月14日(日)には、三重県と災害時の多言語情報発信について図上訓練を予定しています。皆様と一緒に少しずつ経験を積み、体制整備を進めていきたいと思っております。

日本語講座

SIFA では、年に2期、入門・初級の日本語講座を実施しています。9月～12月には、コロナの影響で春に予定していた入門講座を実施しました。

ひらがな・カタカナが読めず、日常会話もほとんどできない方を対象に実施したところ、定員(9名)いっぱいの参加がありました。新型コロナウイルスの影響で、職が不安定になっていることも影響していると考えられます。



↑先生(右)と入門講座の修了者たち



↑初級講座の様子

最初全然話せなかった人が、少しずつ笑顔でコミュニケーションが取れるようになっていきます。

1月7日からは、初級レベルの講座が始まりました。充実した日常生活を送るために、SIFA ではこれからもいろいろな場面で使う日本語を学ぶ場を提供し続けていきます。

冬休みの宿題支援教室を開催しました

夏休みに引き続き、冬休みも外国につながる児童対象の宿題支援講座を、飯野小学校をお借りして12月24,25日、1月5,6,7日の5日間行いました。

夏休みの時に比べて学習の習慣がついてきて、意欲をもって取り組める子が増えてきていると感じる一方、足し算・引き算・掛け算の定着がまだまだの子もいました。中には、集中して勉強に取り組めない子もいますので、マンツーマンを目標に学習環境を整えていきたいです。

一般のボランティアのほか、今回は教員志望の大学生の参加もありました。外国籍の児童への指導について経験できる貴重な機会ととらえてもらえているようですので、これからも情報発信を続け、たくさんの学生さんにこの活動に入り込んでもらえると、更なる発展が見込めると思いました。

子どもたちからは、「家では勉強が難しすぎて全然取り組めないけど、この教室でサポートしてもらえたから頑張れた」や、「分数が分かるようになった」「都道府県名がほとんど分かるようになった」といった感想がありました。

本事業をはじめた当初は、宿題を終える事が子どもの自尊心につながればと考えていましたが、学期間の空白部分の学習環境を整え、毎日学んでいくことで、子どもたちが勉強に向き合えるようになってきていると感じています。

事業を通して見えてきた課題については、支援者はもちろんのこと市教委や学校等と共有し、さらに発展させていければと考えています。



↑書初めの練習



↑支援は、マンツーマンが理想



↑周りとの距離を取りながら真剣に学んでいます

公益財団法人鈴鹿国際交流協会 (SIFA)

〒513-0801 鈴鹿市神戸1-17-5 別館第3

TEL : 059-383-0724 FAX : 059-383-0639 ✉ sifa@mecha.ne.jp URL : <http://www.sifa.suzuka.mie.jp>